

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成27年11月24日(火)
場 所 一関市立大原中学校
学 級 2年A組(24名)
授業者 及川 静香(大原中学校)
BUメンバー 杉下 遼(一関東中学校)
山蔭 理恵(大東中学校)

1 単元名 PROGRAM7 If You Wish to See a Change (*Sunshine English Course 2* 開隆堂)

2 単元について

本単元は、12歳の時にリオの地球環境サミットで伝説のスピーチをしたセヴァン・カリス・スズキさんが題材となっており、環境保護活動を続けている彼女の成長を追いながら、彼女の生き方、伝えたいメッセージなどについて触れている。初めは彼女についての説明、後半はスピーチ形式で構成されており、Section3では彼女が影響を受けたガンジーの言葉やリオで出会った少女の言葉が紹介され、それらから彼女が考えたことや感じたことが伝えられている。自ら行動を起こす必要性を説く彼女の生き方に触れることによって、自分の将来の生き方や在り方について考えを深めることが期待できる。

本単元の新出言語材料は、<動詞の-ing形>(動名詞)、<look[become]+形容詞>、<主語+動詞+人+もの>などである。これらは動詞句を主語や目的語として用いたり、人やものの様子や状態について詳しく説明したり、誰かに何かを与える(～してあげる)という際に使用される表現である。特に、「誰が」「どうする」「誰に」「何を」というように、動詞の後に目的語が2つ続く第4文型については、1年時の「誰が」「どうする」「何を」という第3文型との違いに気付かせることで、理解と定着を図る必要がある。

学習指導要領の書く言語活動の指導事項の一つとして、「(イ)自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」とある。本単元では本文中のセヴァンさんの生き方に触れ、生徒が感じたことや考えたことを話したり書いたりする活動で上記(イ)の「書く力」の育成につなげる。また、単元の最後には自分自身の身近な人で素晴らしいと思う人物について紹介する文を書く活動を設定する。セヴァンさんがこれまで出会ってきた人々から影響を受けたように、生徒自身の身近なところにも自分を成長させたり影響を受けたりする人がいるということを具体例とともに思い起こさせ、その人物に対して自分が感じていることや考えたことを伝えさせたい。その際、これまで学習したことを使うことで既習事項の定着を図り、生徒個々が自分の考えや気持ちを伝えるために必要な言語材料を自ら選択し、まとまりのある文章で書く力を養いたい。

本単元後にはMy Project5「将来の夢を語ろう」が続く。本単元でまとまりのある文章を書かせ、段階を踏んでMy Projectにつなげたい。

3 生徒について

明るく元気なクラスである。下位の生徒も授業に対する意欲は高く、間違いを恐れずに発言しようとする姿勢が見られる。英語を話すのが好きな生徒が多く、普段からコミュニケーション活動に楽しんで取り組み、自分たちで考えながら協力して最後までやり遂げようと真面目に活動している。しかし、基礎基本が定着していない生徒も数名おり、全体的に見てもライティングに多少の抵抗心

を持っていたり、テストの自己表現問題では、あと一步のところまで正確さに欠けたりする生徒が多い。

※以降は、CAN-DO テスト、県学力定着度状況調査の結果を分析した自校の実態についての記述がされている。

(県と自校を比較した数値データが含まれているため割愛)

4 単元の指導について

(1) 小学校外国語活動との関連から

生徒たちは、小学校外国語活動を通して様々な英語表現に慣れ親しんできた。本単元に繋がる部分としては、Hi, friends! 2 Lesson3「できることを紹介しよう」という単元で、助動詞 can を使って自分や相手の紹介を行っている。相手を紹介する活動では、単なる相手についての事実の羅列ではなく、相手に対する自分の思いを、理由(根拠)とともに表現させることでコミュニケーションが豊かになる。しかし、外国語活動で扱う言語材料は限られており、理由(根拠)をすべて英語で表現することは難しいであろう。小学校時代に英語で言いたくても言えなかったことが、英語で表現できるようになったと実感させることは、中学校英語の課題として引き継がなければならないと考える。他己紹介はこれまでも行ってきたが、本単元の他己紹介の活動においては、自分の考えや気持ちを伝えるために必要な表現を新出・既習事項の両方から選択し、活用させる。そして、小学校時代には英語で伝えられなかった他の人物に対する自分の思いを、理由(根拠)とともにまとまりのある文章で表現をさせたい。

(2) 言語活動を設定する上で配慮した点

本単元では、まとめの活動として「身近にいる素晴らしいと思う人を紹介すること」を設定している。紹介する人物や紹介に使う言語材料を自ら選択し自己表現を行うため、紹介する人についての事実だけでなく、自分の思いや考え、エピソードなどを加えることで、より内容が豊かになる。生徒に紹介内容を選択させ、より良い紹介文について考えさせることで、それぞれの生徒独自の紹介文を作成させたい。

実際、このような自己表現活動は、本単元のみで行うものではなく、年間を通して行うものである。どの単元で活動を行う上でも配慮が必要な点について以下のように考え、継続的に取り組んできた。

① 内容の選択・整理(マッピング)

より豊かな表現を行うためには、その内容を選択し、読み手(聞き手)に分かりやすく伝えるために整理する必要がある。今回はその手段としてマッピングを用いた。マッピングは、単なる情報の羅列ではなく、自己表現がしやすい形でなければならない。横型マッピングを行うことで、生徒の思考を促し、紹介する順番や前後のつながりについて考えさせた。

② 正確な表現の手助け(語順シート)

読み手に伝わりやすい英文を作成するためには、正しい語順で文を構成することが求められる。学習指導要領解説の「書くこと」(イ)でも示されているとおり、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」は意味の伝達においても重要な役割を担う。今回はその手助けとして、語順シートを作成し、「話すこと」の活動の前後に活用した。

5 単元の目標

- (1) 身近にいる素晴らしいと思う人物を紹介する。
- (2) 動名詞、look[become]+形容詞、主語+動詞+人+もの、の意味や構造を理解する。
- (3) マッピングを活用して、伝えたい情報をつながり意識して書く。

6 自校の CAN-DO リストとの関連

2年「話すこと」 (2) 相手に事実や自分の考え、気持ち等を適切に伝え合うことができる。 2年「書くこと」 (3) 身近なテーマ、出来事について、自分の考え、感想、意見、理由などを30語程度の英文で書くことができる。

7 単元の評価規準

ア：コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ：外国語表現の能力	ウ：外国語理解の能力	エ：言語や文化についての知識・理解
①マッピングを活用して、伝えたい情報をつながり意識して書こうとしている。	①身近にいる素晴らしいと思う人物を紹介することができる。	/	① 動名詞の意味や構造を理解している。 ② <look[become]+形容詞>の意味や構造を理解している。 ③ <主語+動詞+人+もの>の意味や構造を理解している。

8 単元の指導計画（全7時間）

時	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・自分が影響を受けた人物について発表し合う。 ・セヴァンさんのスピーチ映像から人物像を知る。 ・本文を通して読み、その概要をつかむ。 ・単元のゴールとして自分が素晴らしいと思う（影響を受けた）人物について紹介することを学ぶ。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。	アの①	活動の観察
2	○普段していることで自分が好きなことについて英語で表現する。 ・動名詞を用いた文の構造と使い方を理解する。 ・自分が好きなことについて英語で問答する。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。	エの① アの①	後日ペーパーテスト 活動の観察
3	○友達の表情について英語で表現する。 ・<look+形容詞>を用いた文の構造と使い方を理解する。 ・相手の表情を読み取り、その理由について英語で問答する。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。	エの② アの①	後日ペーパーテスト 活動の観察

4	<p>○人にあげたい物を英語で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<give+人+もの>を用いた文の構造と使い方を理解する。 ・友人への誕生日プレゼントに自分だったら何をあげるかを英語で表現する。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。 	<p>エの③ アの①</p>	<p>後日ペーパー テスト 活動の観察</p>
5	<p>○セヴァンさんが人からどんな影響を受けたか読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を通して読み、内容を理解する。 ・教科書本文を通して、動名詞、<become+形容詞><give+人+もの>の使い方を理解する。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。 	<p>エの① エの② エの③</p>	<p>活動の観察 ワークシート</p>
6	<p>○セヴァンさんのメッセージを理解し、自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、感じたことや考えたことを英語で書く。 ・教科書本文から、人を紹介するときに使える表現を探す。 ・マッピングを用いて人を紹介する練習をする。 	<p>アの①</p>	<p>活動の観察 ワークシート</p>
7 本時	<p>○身近にいる素晴らしい人物について紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングを用いて紹介する内容を整理する。 ・事実やその人物の行動から自分が感じたことや考えたことについて、まとまりのある文を書く。 	<p>イの① アの①</p>	<p>活動の観察 ワークシート</p>

*次単元の帯活動で、数名ずつ発表する。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

身近にいる素晴らしいと思う人物について紹介する。

(2) 本時の評価

観点	評価規準	努力を要する生徒への手だて
外国語表現の能力	文章の構成を考えながら、自分が素晴らしいと思う人物について30語以上のまとまりのある文を書くことができる。	既習事項を振り返らせたり、モデル文を示したりしながら、見えそうな表現に気付かせる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	マッピングを活用し、伝えたい情報について、つながりを意識して書こうとしている。	既習事項を振り返らせたり、モデル文を示したりする。

(3) 展開

	学習内容	学習活動	指導上の○留意点 ●評価
導入 5分	1 あいさつ 2 学習課題の共有		
	身近にいる素晴らしいと思う人物を紹介することができる。		
展 開	3 モデル文を読む 4 メモの見直し 5 マッピングをする 6 即興スピーチ 7 紹介文の下書き 8 ペア交流・校正 9 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を読み、どんな内容で紹介文を構成するのかわかるかを確認する。 ・紹介文で使用できそうな表現を確認する。 ・前時に作成したメモを見直す。 ・十分な量か、適切な内容か確認する。 ・紹介する人物についてマッピングで情報をまとめる。 ・書いた内容の中から必要な情報を取捨選択し、文章に書く内容を整理する。 ・構成を考える。 ・マッピングを見ながらペアで口頭で伝え合う。 ・必要に応じて辞書を使いながら下書きをする。 ・ペアで下書きを交換して読み、お互いにアドバイスをする。 ・アドバイスをもとに、読み手により伝わるように校正する。 ・代表生徒の発表から自分にも使えそうな表現を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル文から、紹介文で使用できそうな表現を確認させる。 ○制限時間を設定する。 ○既習事項で紹介できるような表現の工夫を促す。 ○活動の観察で気づいたことをアドバイスする。 ○付け加えたい情報があれば加えさせる。 ○構成や使用するべき表現を考えさせる。 ●活動の観察 ●下書き用紙への記述 ○振り返りのポイントを示す。
40分			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・30語以上あるか ・伝えたいことが伝わるよう、文章構成や文と文のつながりが工夫されているか、 </div>
5 終 分 末	10 まとめ 次時の予告	・学習シートで本時を振り返り、自己評価を行う。	